

## 基礎講習プログラム 13 質疑応答

### 【質問】

神経興奮物質、グルタミン酸について質問させてください。

最近、消化器内科で味の素が胃の粘膜に直接刺激を与え胃の動きを促進することを学びました。GABA が一般的にリラックス効果をうたうサプリメントなどにあるように、グルタミン酸（味の素）を経口投与することにより、てんかんの閾値を上げてしまう可能性はあるのでしょうか？

【回答】ご質問ありがとうございます。現時点では正しい解答がない質問と思います。つまり可能性はないともあるとも言えません。いわゆる発作閾値（seizure threshold）に関しては併用する薬剤に着目して情報が述べられることが多いです。薬剤の種類によっては発作閾値の低下によりてんかん発作を生じやすくなることが知られています[1]。人のガイドラインを参考にしつつも、獣医療での同様の知見はないので、外挿して参考にする際にはご注意ください。

[1] てんかん診療ガイドライン 2018, p36

[https://www.neurology-jp.org/guidelinem/epgl/tenkan\\_2018\\_03.pdf](https://www.neurology-jp.org/guidelinem/epgl/tenkan_2018_03.pdf)

## 基礎講習プログラム 14 質疑応答

### 【質問】

嗅球の髄膜種では臭いの消失による食欲低下といった症状は末期まで無いのですか？

また、MGCS の評価はトータルした数値による予後判定とかに使えるのですか？そういった事はお話しされていませんでしたか。

【回答】ご質問ありがとうございます。

- ① 嗅覚低下による食欲低下は病態初期から認められる可能性はありますが、これを主訴や症状のキーとして診断に繋がることは稀と思います。さらに、嗅覚低下を厳密かつ適切に評価する手法が獣医療においてはありませんので、関連性について述べることは難しいのではないかと思います。一般論として、嗅球の髄膜腫での食欲低下は脳腫瘍の末期的な症状として認められることがあり、これが嗅覚低下に由来するのか、拡大した腫瘍による食欲中枢障害に由来するのかの判断は困難と思います。腫瘍による食欲中枢障害は下垂体巨大腫瘍でしばしばみうけます。一方で、猫では食欲低下の鑑別に脳腫瘍が入りますが、これは嗅球に限らず脳腫瘍で生じ得るものと思います。
- ② mGCS（昏睡スコア）は総合点が予後に関連する事が報告されています[2]。この報告で

は 8 点以下では予後不良 (50%の生存率) とされます。また、頭部外傷の症例を集めた報告で、犬では死亡群で中央値 11 点 (範囲 4-18 点) に対して生存群で中央値 16 点 (範囲 8-18 点) とも報告されますので、ある程度の指標にはなります。一方で、猫では死亡群で中央値 14 点 (範囲 8-17 点) に対して生存群で中央値 17 点 (範囲 8-18 点) と差が出にくく、スコアが下がりにくいことに注意が必要です[3]。

[2] Platt SR, Radaelli ST, McDonnell JJ. The prognostic value of the modified Glasgow Coma Scale in head trauma in dogs. *J Vet Intern Med.* 2001;15:581-584.

[3] Cameron S, Weltman JG, Fletcher DJ. The prognostic value of admission point-of-care testing and modified Glasgow Coma Scale score in dogs and cats with traumatic brain injuries (2007-2010): 212 cases. *J Vet Emerg Crit Care.* 2022;32:75-82